

二宮町役場新庁舎建設特別委員会議記録

1. 期 日 令和元年 8 月 27 日 (火) 開会 16 時 00 分
閉会 16 時 43 分
2. 場 所 第 1 委員会室
3. 議 題
1. 基本構想・基本計画案について
 2. 今後の進め方について
4. 出席者 根岸委員長、渡辺副委員長、羽根委員、松崎委員、坂本委員、小笠原委員
露木委員、大沼委員、野地議長
- 傍聴議員 4 名
一般傍聴者 0 名

5. 経 過

1. 基本構想・基本計画案について

委員長 第 6 回二宮町新庁舎建設特別委員会を開催する。議題 1 と 2 がある。1 は基本構想・基本計画案についてとなっているが、今回、特別委員会に初めて参加された方もいる。調査事項、目的は役場庁舎整備における基本構想・基本計画の検証、調査、研究および提言で進めてきた。1 番にこのように書いてあるが、ここまできていかがであったか。結論的には否決という最終結果が出たわけで、やってきたことに意味はあったのか。皆さんやってきて、少し振り返りだったり、特別委員会に参加してきたの総括というか感想を含めて少しずつお聞きしたいと思う。1 人 1 回でなくても良いがいかがか。

渡辺 私の方は補正予算案が否決されたということが、即基本構想・基本計画案が全部振り出しに戻った理解ではなく、あくまで基本計画案についてはそのままかなと思っている。基本的にはまず、そこがやはり今までの話し合いでも立場が違ったのかなと。もう 1 つ、今後の進め方によっては内容的にどう進めて、つめていくかということも出てくる可能性があると思っている。特別委員会自身を発足させるエネルギーというのはかなり大きなものがあるので、私自身としてはこの委員会は解散するのではなく、継続してお休みするというのが良いと思う。状況が変わる中では目的やメンバー自身も入れ替えというのも含めて、進めれば良いかなと思う。

小笠原 今日の議題の 1 が基本構想・基本計画案についてという抽象的で分かりづらいものは、役場の方から出た役場新庁舎建設基本構想・基本計画案について話し合うのかなと思われるような題名で良いのか。

- 委員長　　今までの特別委員会の議題が、基本的にこのタイトルにしていたというところで、基本的事項として入れてしまった。
- 小笠原　　今まで、6月補正予算が否決される前は、そういうかたちで良かったと思うが、補正予算が否決されたという現実がある中で、漠然とした題名をレジюмеに入れるという神経がよく分からない
- 委員長　　レジюмеを変えるか。
- 小笠原　　1番は省略で2番の今後の進め方についてやるということであれば理解ができるが、渡辺副委員長も結局1番は飛ばして2番の話になっていると思う。議題というあり方自体がそもそも間違っていると思う。他の方は私の意見に対して何かあるか。
- 羽根　　議題として1,2とあり、1が今の議題にしないのであれば、2についてだけお話しをしていけば良いと思う。振り返りということは、正式な委員会でお話ししていく必要があるのかなというところで2番だけで良いのではないかと考える。
- 露木　　私も羽根委員と同じで、今後の進め方という議題で良いかなと思う。ただ、特別委員会をたてたことが議会にとっては大きなことなので、振り返りも今後の進め方につながるということで必要であり、話していいのかなと思う。
- 委員長　　私としては、結局、基本構想・基本計画案についてのメリット、デメリット、あるいは町の提案に対する整理が特別委員会自体でも結果的にはできてなかったという心残りが少しあったことと、勉強会の部分でも、そもそもが違うのではないかとご意見が出てきたりしている中で、特別委員会の最初のスタートから、ちょっと認識の違いがあったのだろうということを改めて感じた。そのため、整理という意味もあり、やってきてどうだったのかということ聞きながら、今後も進め方についてもご意見をいただき、報告書にまとめられれば良いなと思った次第である。では、1は省略ということで、2の今後の進め方ということで、色々まとめながらご意見をください。今、副委員長からは、継続して休むのが良いと、それに際してはメンバーを変えたりして特別委員会自体は継続しても良いのではないかという意見があった。他の方はどうか。
- 露木　　この特別委員会が決して無駄になったとは思ってはいない。ただ、難しかったという意味では、反対も賛成もここだったら共通して町に言えるよということしか委員会としてだったので、出せてないのだと思う。それは各個人、各議員の最大の要求ではなく、それぞれの共通した部分だけ拾いあげているわけなので、そこを町が改善してきても根本的な解決に達してないと感じた議員は多かったと思う。特に反対した議員にとってみると、そこではないというところもあったと思う。町の方としてみると、例えばこの委員会から出たことに関しては、調べたり、応えたりしたのに、何で反対するんだということにもなってしまったのだと思う。反対していた議員にとってみれば、

そこじゃないんだという部分もあったと思うし、両方にエネルギーロスの部分が生まれてしまったかなと思う。だから全てが無駄だったとは決して思わないが、なかなか特別委員会で共通した何かを出していくというのは非常に難しく、提言も出せなかったというのは、その通りであり、致し方なかったと思っている。今後についてことに言うと、否決ということに前回の設計費がなったことで、目的を変えなければ存続の合理的な理由がないと思っている。目的を変えるのであれば、その目的を達成するために、そもそも特別委員会を立ち上げる必要があるのかという議論をしっかりとやる必要があると思っている。町民に対しての分かりやすさという点においても、1回解散をして、どうするかということをしつかりと新たな議論を始めていく必要があると思う。

委員長 何かしゃべっていただいても構わないがどうか。

坂本 委員長から委員長報告のようなファックスが来ているから、それを今検討するのではないのか。

庶務課長 21日の勉強会の成り行きを住民は見えていないから分からない。今日は公開なので、改めて今後の進め方について皆さままで話をさせていただきたい。

坂本 私は今度12月に出る、いや3月だろうとか色々言われているが、新庁舎に関する薄い冊子が配られた。否決されたのに不思議ではない。大きな変更があるというのであれば分かるが、ほとんどそのまま縮小版のようなものが配られた。議員にだけか、町民に配って説明会をするのか分からないが、議会で否決されたものを大幅な修正、新しい案を出すというのであれば、特別委員会をつくる意義がある。でも、今までの経過の中で、たった1人の差であっても否決というのが歴然とある。3月は7対6で賛成が多くて通った。その時に負けた方が何か言ったのか。それに従うのが議会制民主主義である。特別委員会のあり方は、役場の言った通りにするものではないと思う。議会議員にそれぞれ意見があって、果たしてそれが良いかどうかを議論して、結論が出るのが、本来の特別委員会であると思う。廃止やむなしと委員長の報告案に書いてあった。廃止になっただけである。やむなしという言葉はすごくひっかかる。議会は議会、行政は行政であり、議会が6月結論で否決という結論になったということは、それ以上のものはない。それをまた継続してというが、中身が違うことであれば特別委員会を新たに作り直せば良い。それを引きずって、何でやるのかすごく不思議である。もし強引に行政がやるとすれば、議会軽視も甚だしい。結論を踏みにじてやろうとするのは有り得ない話である。そういう意見で終わりにし、新しい案が出てくるのを待つということにして、その内容によってはまた特別委員会をつくる方が良いと思う。

松崎 坂本委員に全部言われてしまったが、基本計画案は否決された。今回の議論のベースは基本計画案にあったわけで、それが否決されたわけであるから、しくしくと廃止するということが、否決を受けて今後、町長は真摯に受け止めてほしい。真摯に受け止めるということは、振り出しに戻って色々な可能性

を考えながら。このままで良いわけがないと、きっと素晴らしい案が出てくると私は期待している。そしたらその時に特別委員会を立ち上げていくということになると思う。とにかく否決をされたので解散をするということになると思うが、何か提言はという話も少しあった。あえて提言があるとしたら、否決されたはずの基本計画案が製本され、これから出向いての説明会があるということになっている。その時にほとんど変わらず製本された基本計画案を配っているということになればおかしい。否決されたものをどうして配るのかと説明を求めるくらいではないかと思っている。繰り返しになるが、基本計画案は否決された。先ほど渡辺副委員長は、そうではないというようなことを少し言っていたが、その意味が分からないのだが。

渡辺

補正予算は否決、要するに基本設計の予算は否決をされたが、基本計画そのものを否決はしていないわけである。反対討論を色々したが、案そのものに対して問題が出ていたのは、ラディアン裏が良くないというものも出ていた。ここで出ているラディアン裏を他の用途に使えばいいという意見は出ていたが、基本計画案そのものは否定されていると思わない。案を止めるのであれば、案を止めろという提案を議会でしなくてならなく、案を白紙にしろとか撤回しろとかという論議ではないため、案そのものは議会からの提案で修正した部分が、この冊子には活かされている。決して執行者側もこの案を撤回するとは言っていないと思う。そこを今度の9月議会ではっきり質問するのであれば、すれば良いが、ルールとして私は決してこの基本計画案を白紙にしたいとは思っていない。

露木

そうすると例えば、今回反対した7人が白紙撤回を求めると討論で言っていたらという話なのか。

渡辺

形式的なところは別としても、議会としてこれの撤回を求めて、執行者の方は撤回したいとは、白紙にするとは一言も言っていないと私は思う。

羽根

私の認識だが、いきなり3月、6月で基本設計の予算と補正予算が2回続けて否決というか、外されてその部分はなくなったと思う。基本設計だけが急に出てくるということは有り得ないので、現在出ている基本設計というのは、今ある基本構想・基本計画案に沿った形で基本設計が出てきていると思うので、いきなり基本設計だけ出てくることはない。その流れでできた基本設計が2回否決され、はずされたイコール構想計画案も白紙と理解している。今日は特別委員会なので、基本構想・基本計画案を検討、チェックしていくために、プラスその他のことで特別委員会を発足したわけで、その意味はもうなくなったので解散は妥当でないかと認識している。

大沼

新庁舎建設特別委員会が設置されて、それがもとで、板倉町の視察ができたり、いろいろな有識者の話が聞けたり、色々なことがあり、議員として、特別委員会としても知識、考え方というものを以前よりもかなり充実したものになったのではないかと考えており、特別委員会の意義はあったと認識している。その中では議事は進行してきたわけだが、実際に基本構想・基本計画案の設計委託費とかが否決されたということは、基本計画案ではだめだと

議会のジャッジが出たと認識している。たとえば、先ほど基本計画案の廃案をわざわざしなければならぬのかどうか、を考えると今は必要ないかと思うが。予算否決された計画案をまだ同じ計画のまま行政側が強引に進めようとするのであれば、議決の、議会の軽視が実際にと現実として行われたという出来事になるのかと考える。先ほどから出ているが庁舎のこの計画案を進める、もしくは考えるのであれば大幅な計画変更や議会側が納得というか承認できるような内容に変更する必要があるが現時点では行政側にあると考えている。案がそのまま残っていたとしても全く効力が発しないもの、例えば、道路の計画案とか、ほぼできないような案が町の中にはたくさんあるが、1種、2種しかならないのではないかと考えるようにしている。

委員長

基本構想・基本計画を作成するための予算案は承認されたと、ただし、中身について議決を問われるシステムになっていない。そこで解釈が変わってくるたびに議会として何を求めるのかを議論し続けなければならないと思った。特別委員会でもそれが認められないままで解散しようかという話になっているが。そこに対して結論を出す場ではないが。私も役場側の認識と討論をやった中でも一度ここでストップして、今チームでできないので各自でつめて確認していく方法しかない。基本計画・基本構想をこのまま続けるのかどうかという役場の姿勢に対しては。

松崎

確認だが、議員になる前の話だが、基本計画案を進めようと、その後、選挙があり、ここにも新しいメンバーがいるわけだが、その人たちが基本計画案をベースにして、次の基本設計に進もうと、その時に補正予算が否決されたわけだが、新しい議員のメンバーが基本計画案を承認しなかったことになると私は思う。メンバー入れ替わって、前のメンバーは承認したが、新しいメンバーは承認しなかったということになる。

委員長

承認しなかったのは基本設計である。

松崎

基本設計は見えていないのか。
（「基本設計はできていない」との声あり）
見たことない。

委員長

基本設計に入ることがだめである。予算提案権も首長にしかないのと同様で、われわれは求められた議案の議決をしたと。基本構想・基本計画案の結論をどうするかということは議決を求められなかったというシステムになっていることである。解釈の違いが生じている現状だと思う。

坂本

いろいろ計画案があって、説明され、冊子をもらって、それをみんなで検討して次の予算で、お金をかけて基本計画をする。基本設計の予算を否決された。今までの流れの前年度からやってきたような積み重ねがだめだと言われただけである。だからどうするのかと言うと、もう一回修正するなり、何なり、事が起きないと、議会としてそんな馬鹿な話はない。だから、お金が止まっており、賛成多数なら一生懸命設計をやっているはずである。それをできなくなったということである。それでまだ何かあるのか。まだわれわれ

が。理由がこうだから、お金を使ってよいというのか、そんなこと言えない。否決された。

小笠原

発言しないのは私だけのようなので、この委員会を今後どうしていくかということは、委員が8名いる中で、この計画を進めるべきだという正副委員長と私の少数派が進めるべきだという価値観をもとに特別委員会を進めたとしても圧倒的過半数がこの町の計画が絶対良くないという考えのもとにいるメンバーの中で、この先、明らかに設計予算が否決されているわけなので、そこを譲り合いながら合意をとることが全然できない。この委員会においては。議会の中は、ちょうど7人と7人で半々で、議長は議決権があるので、表明されていないが議長としては基本構想・基本計画は進めるべきだという立場だと理解している。議会の中は、ちょうど半々である。この委員会は過半数以上に反対派が多いので議論がしづらい。ここは、設計予算で否決されたというところで休止と言うよりも廃止か、解散か言い方分からないが、そうしていただき、新たに議会全部で真剣によいものを作っていかなければならない状況になったときに改めて特別委員会を設置することは問題ない。昔はこういう特別委員会に出ると、費用弁償がついて予算が絡んだが、そういうものも今はない。テープ起こし代はかかるかどうか分からないが議会の総意さえあれば、それが進められると思うので形だけ無理やり残すことはやめて、ここで否決されたことを契機に解散するというところでよろしいのではないかと考えている。

議長

総括的なところから入ると特別委員会は非常に意味があったと思う。大きな事業を進めることについて、町民の発信を含めてだが、議会としてこういう動きをしていると町民に興味をもっていただいたであろうかと思う。今反省としては、スターと時点での目的がしっかりしていなかった。今後の進め方については、いろいろご意見あるかと思うが個人的な意見として、ここで1回解散し、必要とあれば改めて皆さんで議論して、特別委員会を作るのか、あるいは各議員活動の中でやっていくのか今後進めていけばよろしいかと思う。最後に先ほど松崎議員の確認事項だが、今回は補正予算が否決されたということで、補正予算は基本設計委託料が否決された。町も次には進めないということがあるが、基本構想・基本計画案については議会として廃案だとか、何だとか、既決事項としては一切賛否を取っていない。賛否を取ったのは予算のことだけである。今後もこういうことがたくさんあるかと思うが予算に対してどうだと聞かれているので行政的な中身を否定、否決するのは少し意味合いが違うのでご承知おき願う。

大沼

基本計画案が生きている、生きていないという部分で廃案を決議する必要があるということか。

庶務課長

今の議長の解説の通りで、基本構想・基本計画案は議決事項ではない。設計にかかる補正予算案が上程され、否決された。話を聞いてみると補正予算否決したイコール白紙、廃案だと解釈される方がこの中に結構いらっしゃると思うが、これが本当に白紙にしてくれと議会の意思を示すのなら議員提案の決議をするべきではないかと。町がなぜ今冊子を出してきたのかと言う疑

問が出てきているが、それは補正だけを否決されたからである。案そのものは議決されていないからということである。これから先も議決事項ではないと思う。予算というかたちで問うことはあるが。議会としての意思を示したいなら議員提案で決議書を出す必要があると思う。

露木

今、最後に議長が「ご承知おきください」と示されたが、個人の考えとしては基本構想・計画がもうだめだと思うから補正を否決している人もいる。そういう人が述べることは特に問題ないと思う。最後にご承知おきくださいと言うのは、どの部分なのかよく分からない。

議長

言葉足らずで失礼した。私たちが議案として受け止め、賛否可否を表明すると言うのは議案に対してである。たとえば、条例制定してよいか、悪いか。良い、悪いです。予算については、この予算で次に動いてよいか、良い、悪いです。そして、私たちは予算という形で議決する。これは議員活動として私たちの仕事がある。予算に対してどうだということがあるというのが一つあるのでそこは承知しておいていただきたい。これから自分たちが賛否を問うときもそうだが、町は私たちに何を聞いているのか。予算を使ってよいか、悪いか、ということを質疑したり討論をしたりして賛否をする。中身という、今回のこともそうだが、中身がだめで、反対された方もいる。その他に、中身はよいが町民の理解がまだ足りないからだめだという方もいらっしまった。中身についてはそれぞれの意見があってよいが今回議会として出した結論は次へ進む予算をつけないということである。中身は皆さん違う。イコール案が全て否決されたということではなくて、予算を付けさせないということが決まったということである。議会としてはこれしか言いようがない。たとえば、これが総合計画として議決事項であれば、その計画そのものに対してマルかバツがあるかもしれないが。この計画案が良いか、悪いか議案をいただいたわけではないので、そこだけは、これからたくさんいろいろあると思うが、意識をしていただきたいという意味で承知をしていただきたいと表現した。ご理解いただけると幸いである。

渡辺

蛇足だが、賛成した議員も、基本構想にはまだ判断がつかないから、基本設計に進んで詳細の予算が分かった時点で賛否を決めたいと言う方もいる。決して、これで次進めるということではなくて、たたき台として、私自身は死んでいるわけではないという意味である。基本設計に進まないということは、このまま出されても先ほど大沼委員も言っていたが、このまま出されても議会として良いというわけにはいかない。物事の流れとして、これは当然である。

委員長

だいたいそのあたりはよろしいか。今話をいただきながら、廃止と言うことでご意見がまとまるのかと思う。もう結論ということで決めさせていただいてもよろしいか。

(「異議なし」との声あり)

では、最終日の委員長報告で継続審査を申し出ずに、それに対して議決い

ただくことで最後決まるが、委員会としては本日をもって二宮町役場新庁舎建設特別委員会は廃止をするということで委員の皆様 conclusion が出た。また、9月6日の全協でも改めて報告したいと思う。これをもって役場新庁舎建設特別委員会を閉会する。

閉会 16時43分